

鳥獣被害防止総合支援事業（及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業）の評価報告（令和元年度報告）

1 市町村名：佐那河内村、神山町

2 獣種ごとの目標の達成状況

	被害防止計画の目標と実績								増減の背景
	被害金額(千円)				被害面積(ha)				
	現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率	
サル	4,500	3,600	3,538	107%	1.46	1.16	0.99	157%	捕獲、防護柵設置などで被害は減少傾向である。
イノシシ	1,030	820	819	100%	0.61	0.48	0.31	231%	捕獲、防護柵設置などで被害は減少傾向である。
シカ	2,130	1,700	1,660	109%	0.94	0.75	0.66	147%	捕獲、防護柵設置などで被害は減少傾向である。
カラス	60	40	34	130%	0.03	0.02	0.006	150%	捕獲、追い払いなどで被害が減少した。
カワウ・サギ類	500	400	330	170%	－	－	－	－	捕獲、追い払いなどで被害が減少した。
タヌキ	200	160	0	500%	－	－	－	－	捕獲などで被害が減少した。
ハクビシン	100	80	0	500%	－	－	－	－	捕獲などで被害が減少した。
アライグマ	－	－	－	－	－	－	－	－	足跡の目撃例があるため対策を講じていく。
計	8,520	6,800	6,381	124%	3.04	2.41	1.966	170%	

3 交付金の実施状況と効果

事業実施主体名 (協議署名、 市町村)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	事業実施主体の評価	都道府県の評価
佐那河内神山地域 鳥獣害防止広域対策協議会	1 鳥獣被害防止総合対策推進事業										被害防止計画の軽減目標を上回り、目標を達成している。 捕獲の推進や追い払い活動等により、全ての鳥獣で被害軽減目標を達成している。 新たな被害防止計画の目標達成に向け、引き続き被害対策を進めていただきたい。
	①有害捕獲										
	全域	H29	サル	囲いワナの導入	5基	協議会事務局、佐那河内村と神山町で管理	H29.12.20	100%	捕獲檻の整備を行い、捕獲圧を高め3年間でシカ:1,180頭イノシシ:1,086頭サル636頭を捕獲した。	シカ、イノシシは継続した捕獲を続けており、被害の軽減に繋がっている。今後も継続した捕獲に努め被害の軽減を図る。 サルの捕獲は檻の導入など捕獲数が増やすことができたが、まだ多くの被害報告がなされているため今後も継続した捕獲に努める。 今後も捕獲圧を上げるため講習会を継続する。	
			サル	遠隔確認カメラの導入	10基	協議会事務局、佐那河内村と神山町で管理	H29.9.21	100%			
			サル	止めさし機材	1基	協議会事務局、神山町で管理	H30.2.20	100%			
			イノシシ、シカ	猟犬用ベスト	2着	協議会事務局、佐那河内村で管理	H30.2.15	100%			
		H30	サル	囲いワナの導入	1基	協議会事務局、神山町で管理	H30.8.11	100%			
			サル	遠隔確認カメラの導入	1基	協議会事務局、神山町で管理	H30.8.21	100%			
			イノシシ、シカ	捕獲檻の導入	5基	協議会事務局、佐那河内村で管理	H30.11.2	100%			
			シカ、イノシシ	銃器による共同捕獲	9回	-	-	-			
			サル	捕獲個体焼却処分	69頭	-	-	-			
		R1	サル	囲いワナの導入	2基	協議会事務局、神山町で管理	R1.8.30	100%			
			サル	遠隔確認カメラの導入	2基	協議会事務局、神山町で管理	R1.8.30	100%			
			シカ、イノシシ	銃器による共同捕獲	8回	-	-	-			
			サル	捕獲個体焼却処分	74頭	-	-	-			
			イノシシ、シカ	ワナ猟技能講習会	1回	-	-	-			
	②被害防除										
	全域	H29	カワウ、サギ類	追い払い実施	7回	-	-	-	モンキードッグと飼い主が参加し、年1回合同訓練を行い適正な運用について確認を行った。 カワウ、サギ類の追い払いを行い被害軽減に努めた。 研修会に参加し、実施隊員の対策技術の向上に努めた。	カワウ、サギ類の追い払いを行うことやモンキードッグの適正な運用により一定の被害軽減が確認できた。 今後は住民が率先して行えるよう推進を進める。 引き続き実施隊員の対策技術や知識を高めると共に、効果的な対策を進めていく。	
			サル	モンキードッグ運用講習会	1回	-	-	-			
		H30	カワウ、サギ類	追い払い実施	10回	-	-	-			
			サル、シカ、イノシシ	指導者の育成	3人	-	-	-			
			サル	モンキードッグ運用講習会	1回	-	-	-			
		R1	カワウ、サギ類	追い払い実施	10回	-	-	-			
			サル、シカ、イノシシ	指導者の育成	2人	-	-	-			
			サル	モンキードッグ運用講習会	1回	-	-	-			
2 鳥獣被害防止総合対策整備事業											
3 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業											

注1：被害金額及び被害面積の現状値及び目標値は、被害防止計画から転記する。

2：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

3：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

4：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式

5 第三者の意見 徳島県立農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課長 安丸 浩志

コメント

隣接する2町村が連携して、囲いワナや遠隔確認カメラの導入、モンキードッグの運用講習など、多岐にわたる取組が行われており、全体として被害は減少している。
継続した取組により被害のさらなる減少を図るとともに、被害発生が懸念される地域への侵入防止柵設置の検討や新たな捕獲者の確保などを進め、被害の抑止につながるよう期待する。